

# 令和元年度 社小学校教職員による自己評価

※採点：4…できた 3…ややできた 2…ややできなかった 1…できなかった

## 1 研修について

### (1) 主体的な研修<3. 0>

「誰もが個性や能力を発信する研修の場を創造し、研修を高め合う。」

#### 【成果や課題】

- 若手の部会リーダーを中心に、各部会で積極的に研修を行った。
- どの研修でも成果と課題について発言することができた。様々な教科で「思考ツール」の具体的な活用方法について学べた。
- 全体研修の場では、自由討論の形が多いが、経験年数や立場の違う参加者が20人以上いる中で、全員が自由に話し合うことは難しい。

#### 【改善・確認事項】

★より主体的な研修の場となるよう、討議の持ち方など研究推進担当から提案をする。

### (2) 検証的な実践<2. 7>

「研究の道筋を具体的にし、その検証に努め交流によって深める。」

#### 【成果や課題】

- 学年層での事前研修や事後研修を行い、自らの課題や成果がよく分かった。また、学年層の研修では、自分のクラスの児童らと近い発達段階であり、授業中の態度や教材の有用性などイメージしやすかった。
- 研究の目的が不明確であった。思考ツールは方法論なのか、目的論なのか分からなかった。
- 研究授業以外では積極的に思考ツールを使ったとは言い難い。

#### 【改善・確認事項】

★各学年層で実践した思考ツールの検証について、全体で交流する時間をもつ。思考ツールがどの程度子どもたちが使えるようになっているか、その思考ツールをどこでどのように使うと効果的なのかが分かるように、6年間の見通しをもって積み上げられるように整理する。

### (3) 思考ツールやICT機器を使った実践の検討<3. 0>

「思考力・判断力・表現力を育成するために思考ツールやICT機器を活用した授業づくりを推進する。」

#### 【成果や課題】

- 学年団でどのような思考ツールが授業に使えるか、また、どのようにして使うことがより効果的かを検討して授業に取り入れることができた。また、その教科においても、視覚支援としてICT機器を活用して児童にとっても分かりやすい授業づくりを目指した。
- 今年度は、思考ツールの活用の初年度ということもあり、戸惑ったものも多かった。

### 【改善・確認事項】

★研究授業以外でも積極的に思考ツールを使い、良かった・悪かったの検証をしている。また、簡単な実践記録をためていく。

★朝の学習の時間を使って、思考ツールの使い方に慣れる時間を設定する。

### （4）互恵的な学習文化<<3.0>>

「互いの学びを持ち寄り、支え合い教え合い、深め合う学習を定着させる。」

#### 【成果や課題】

○ペア・グループ学習を通して、学習の深まりを感じられる場面があり、よかった。

○児童同士の教え合いなどによって学習を深める場面は多かった。

●グループ学習の場は、あまりとることができなかった。基礎的な学力をつけるため個人での問題演習の時間を取りたいと考えての事だが、協同学習をうまく活用して、その狙いを達成できなかった。

### 【改善・確認事項】

★社中学校との連携という意味でも、協同学習のよいところは継続して取り入れる。

★協同学習の手法を全て残す必要はないが、基本的なものは残していく。

### （5）学力の定着<<3.3>>

「基礎基本の定着を図り、学力を高めさせる。」

#### 【成果や課題】

○朝の学習タイム等を活用して、児童の基礎学力の定着に取り組んでいる。

○算数の授業では、既習事項の計算問題に毎回取り組んだ。そうすることで、基礎基本が定着してきたように感じる。

●全国学力・学習状況調査の結果から、本校の読解力（問題を読む力）の不足が示唆されたが、その対応をどうするのか考えたい。

### 【改善・確認事項】

★来年度は、朝の学習タイムも授業時間にカウントするので、今年度よりもさらに系統的・計画的な取組を行う。

## 2 組織について

### （1）計画的なケース会議 学年会議<<3.5>>

「時には広く、時には深く情報を集め、継続的・重点的なチーム指導を進める」

#### 【成果や課題】

○生徒指導委員会、不登校対策委員会、学年会などで情報の共有が図られている。継続的に指導を進めることができた。

●他学年の状況などを把握することが難しかった。

### 【改善・確認事項】

★学年会でその時々で子どもたちが抱えている問題をいち早く対応する。臨時学年集会や学年・学級通信を利用する。

★学年の判断で、全教職員に知ってもらいたい事項については、校務支援システムで報告する。

## （2）協同的な特支教育＜3. 0＞

「児童理解を全校的に深め、よりインクルーシブな学びの場をつくる。」

### 【成果や課題】

- 児童理解の研修を実施したり、啓発朝会を行ったり、特別支援学級在籍児童が交流学級で活躍する場を設定したりした。
- 特別支援学級や通級指導教室があることで、支援が必要な児童も学びが深まっている。
- 特別な支援のいる児童だけでなく、生徒指導上の問題を抱えている児童も多くいる。日本語が十分に理解できない児童もいる。そのすべての児童に配慮することは不可能に近かった。

### 【改善・確認事項】

★インクルーシブな学びの場づくりのための共通理解を行う。特別支援教育に係る委員会を定期的にする。特別支援と生徒指導がタイアップできるような取組を行う。

## （3）サポートファイルの効果的な活用＜2. 8＞

「個別の支援計画・指導計画を活用し、各関係機関との連携して個に応じた支援を継続する。」

### 【成果や課題】

- 児童の目標やそのための手立てを保護者や関係機関と共有することで連携した支援をすることができた。
- 本人に会う前にその児童のこれまでの事や特性を知ることができたので、関わる際の見通しが持てた。
- 支援計画や指導計画を作成して学習指導や生活指導に望むことができていたが、それを学期途中などに見直すようなことができなかった。

### 【改善・確認事項】

★個別の支援計画については、少なくとも学年の中で読み合わせをし共通理解を図る。

## （4）組織的な生徒指導＜3. 2＞

「いじめ未然防止、早期発見、早期対応を組織的に行う。」

### 【成果や課題】

- クラスで起こった友達同士のトラブルも、学年団で情報共有することで、常に多くの目で見守り、気になるところは早期に児童に指導することができた。
- 不登校対応では早期に担当や関係職員と相談し、日常的な情報交換ができていた。
- 事案の対応になりがちで、未然防止の取組は行えていないのが現状である。

### 【改善・確認事項】

★学校で起こり得る問題への初期対応やその後の方針など、専門家の視点から話を聞くような研修をもつ。

### 3 職場環境について

#### (1) 勤務時間の適正化<<2. 8>>

「計画的・効果的に業務を行い、勤務時間の適正化を推進する。」

##### 【成果や課題】

- 定時退勤日（毎週木曜日 6 時退勤）については、守られている。
- 職員会議については時間短縮されている。（校務支援システムの掲示板の活用、事前の資料配布、会議や研修の進め方等）
- 計画的、効果的に業務を行っていても、仕事量が多く、勤務時間超過は慢性化しており課題は多い。
- 早く退勤をしている教師も持ち帰り仕事をしたり、休日出勤をしたりしており、勤務時間の適正化はできていない。

##### 【改善・確認事項】

- ★教育活動の見直しやノート指導の仕方について話し合う場をもつ。
- ★現在の業務内容を一度職員全体で見直し、整理する。
- ★学年の引継ぎ時に、見直しを持てるように、1年間の学年の行事の引継ぎを行う。

#### (2) 風通しのよい職場づくり<<3. 4>>

「職員誰もが自分の意見を発言したり、相談し合ったりして、児童に関する情報や教育実践の成果を共有する。」

##### 【成果や課題】

- 学年団を中心に、経験の少ない教職員の支援を行っている。
- 学年団の話し合いは充実しており、児童や教育実践についての相談ができています。
- 他学年との関わり合いが薄い。大きな学校なら仕方のないことか。
- 学年会では問題行動の話がほとんどで、教育実践の成果はほとんど聞かない。

##### 【改善・確認事項】

- ★学年打ち合わせの話題を工夫し（月によってテーマを決めるなど）問題行動への対応だけにとどまらないようにする。

### 4 環境について

#### (1) 意欲向上の掲示物<<2. 4>>

「学習意欲が向上する計画的・継続的な掲示を工夫する。」

##### 【成果や課題】

- 各学級とも、学習に役立つ既習事項の掲示等、学びに向かう環境づくりに努めている。
- 職員室前の掲示は、工夫（マンネリ化からの脱却、子どもの目に留まるような工夫）が必要である。
- 委員会からの掲示は、貼りっぱなしのものも見られる。

### 【改善・確認事項】

★職員室前の掲示は、その年に力を入れている物（例：思考ツール）にする。

★特別支援の観点（低刺激）からも美的観点からも、時期を過ぎた掲示物は原則外すことをルールとする。

## （2）美しく安全な学校≪3. 3≫

「きちんと清掃・修理・整理され、そして、花いっぱい为学校を維持する。」

### 【成果や課題】

- 担当を中心に花いっぱいの学校になっている。
- 危険箇所、修繕箇所は早期に対応できている。
- 学級園、校舎北側など雑然となっていたり、荒れていたりする。
- 掃除は各学年それぞれ課題がある。

### 【改善・確認事項】

★もくもくそうじに全校的に取り組む。

## 5 開かれた学校について

### （1）積極的な情報提供≪3. 4≫

「各種通信、HP、学校オープン等で学校情報を保護者、地域に提供する。」

### 【成果や課題】

- 学級通信を発行することで、保護者に呼びかけたり子どもの意識向上につながりした。
- 公開NGの児童が多く、KCVや新聞に社小の教育活動を提供できないのが残念である。
- 学校行事のHP更新が滞ることがある。

### 【改善・確認事項】

★HPを定期的に更新する。（担当を明確化する）

★学級通信や学年通信で学校の様子を家庭に知らせる。

### （2）地域の活用≪2. 7≫

「授業や行事などで地域を活用するとともに、感謝の心を育てる。」

### 【成果や課題】

- 地域に出て生活科の学習をしたり、ごりょうが丘フェスティバルなどさまざまな行事を通して地域の方と連携をとることができたりしている。
- 長寿を祝う会、見守り隊ありがとう集会などで地域の方に感謝の気持ちを伝えられた。
- 地域を活用することは大切であるが、地域の何を活用すればいいのかを探すのが大変である。
- 授業に地域を活用するのは難しい（打ち合わせの時間、活動内容とのマッチングなど）それでも、これ以上減らないようにしたい。

### 【改善・確認事項】

★生活科および相互的な学習の時間は地域教材を使うようにする。そして、加東市の人の話を聞く機会（ゲストティーチャーを招く、こちらから行く）をどの学年も1回はつくる。

★ゲストティーチャー等でお世話になった人のリストを充実させる。

★地域に貢献する活動を行う（下校中のごみひろいなど）

## 6 自律力について

### （1）主体的な規範意識≪3.0≫

「ルールやマナーの理由を児童自ら考えさせ、児童会からの積極的な発信を促す。」

#### 【成果や課題】

- 各委員会を中心として、児童自らの提案が多くみられた。
- 定期的にキャンペーン運動をしたり、ポスターなどで呼びかけたりすることで、意識づけられている。委員会を中心に学校をよくしようとする取組が見られた。
- 児童にルールを教えるばかりで、どうしてそうなのかを考えさせることはできていなかった。今以上に児童自ら考える力をつけていきたい。

#### 【改善・確認事項】

★職員会議などで生活指導委員会から今月の共通指導内容を定め、全職員で重点的に指導をするようにする。

### （2）熱心な清掃活動≪2.8≫

「すべきことを与え、考えさせ、掃除を最後まで頑張る児童を育てる。」

#### 【成果や課題】

- タイマーを使ってもくもくそうじに取り組むことでクラス全体で意欲的に掃除ができています。
- 時間いっぱい掃除をすることはできる。しかし、熱心と言えない児童が多い。
- 教師の指導の下ではできているが見ていないとさぼりがちになる部分も見受けられる。

#### 【改善・確認事項】

★もくもくそうじの徹底を全教職員で推進する。自分が精いっぱい掃除しないと終わらないという状況を作り出すことが大切。

### （3）継続的な「挑む」「あきらめない」場≪3.0≫

「自分の目標や学級・学校づくりに挑み振り返る、継続的な場を設営する。」

#### 【成果や課題】

- 学年目標や学級での約束事を機会があるごとに振り返り、よりよい人間関係を築き、気持ちよく学校生活を送ることができるように心掛けた。
- できていないわけではないが、具体的な場をあまり設定できなかった。

#### 【改善・確認事項】

★新潟大付属小で取り組まれている「学級力アンケート」を本校でも取り組むことで、児童の自治力を高めていく。

### **(1) 丁寧な準備<<2. 8>>**

**「児童が主体的な話し合いや活動に安心して臨めるよう準備する。」**

#### **【成果や課題】**

- 児童一人一人を大切にし、自分たちの力で軌道修正できるような声掛けや板書を子心掛けている。
- 話し合いの進め方やモデルに従って、自分たちでほぼ話し合いが進められるようになった。
- 話し合うことを提示して話し合わせる取組はしている。しかし、グループで話し合いをするときに、グループ全員を巻き込んだ話し合い活動が難しいのが現状である。
- 児童主体で話し合い活動をする事はなかった。学年が上がって、話し合い活動で主体的に発言できるように話す力、聞く力を育てられるようにした。

#### **【改善・確認事項】**

- ★委員会活動が主体的に進められるように、当日の流れを事前に委員長、副委員長と確認する。
- ★議題や提案理由など、学級会で共通して使用するようなものをラミネートし学級会セットを作り、すべての教室に常設する。

### **(2) 元気な遊び集団<<2. 5>>**

**「仲間とともに外で元気に遊ぶ集団をつくとともに、教師もともに遊ぶ。」**

#### **【成果や課題】**

- 一緒に外や教室で遊ぶ時間をもつようにした。集団に入りにくい子に声をかけ、遊びに誘った。
- 晴れの日ではできるだけ、外に行くように促しているが、教師とともにという点はなかなか時間を捻出できなかった。
- 給食指導、生徒指導、個別指導、間違いなおしなど基礎基本の定着のための指導をしないといけない子も多くいるので、その対応が忙しい。

#### **【改善・確認事項】**

- ★給食が食べ終わらず残っている児童の指導を学年で交代で行うことで、教師が遊びに参加する時間をつくる。食べ終わりの時刻を決めて、一緒に持っていけるようにする。

### **(3) 次に生かす振り返り<<2. 8>>**

**「自立と共生を視点に、話し合いや活動を具体的に振り返らせる。」**

#### **【成果や課題】**

- 自立をするために自分の行動を振り返ることはとても大切だ。振り返るときは自分の良いところ、改善しなければならないところを書くことで、次につながるようにした。また、その次の活動では声掛けや励ましを行った。
- 振り返りの時間は十分にとれていない。時間がないの、口頭で話させたり、ペアで話させたりした。

#### **【改善・確認事項】**

- ★行事やクラスの活動の後には、事前の話し合い活動も含めた振り返りの時間を設け

る。振り返りの中で、よかった点を取り上げて価値づけることで成長を感じさせる。

## それぞれの教職員からの意見

### (1) 道徳教育

- はげみ通信（通知表）の評価には、授業中に児童が記述した内容や、発言した内容がしっかり記述されている。
- 授業の流し方、内容についてはまだまだ課題が残る。

#### 【改善・確認事項】

★道徳の全校研修の公開授業をする。

### (2) 食育推進

#### 【成果や課題】

- 自分のクラスを見る限り、残食がなくなった。残さず食べようとする姿勢が見られる。
- 加東市こどもさんさんチャレンジを通して、朝ご飯のバランスについて考えさせる機会ができた。
- 給食の残菜が依然多い。

#### 【改善・確認事項】

★4月の給食開始に合わせた、給食指導が一番大切である。給食のルールや先生方の給食の方針（感謝の気持ちを含む）をしっかりと伝える。

### (3) 外国語

#### 【成果や課題】

- 子ども達は外国語活動を楽しみにしている。
- 授業の進行をALT（アシスタント・ランゲージ・ティーチャー）のみに頼ることなく、担任と良いバランスで授業が行えている。
- ALTと打合せの時間がない。

#### 【改善・確認事項】

★学年に一人ずつ、外国語担当を決める。その担当が窓口となり、ALTと打合せを行う。